

議長	副議長	局長	次長	課長	課長補佐	係長	係

## 委員会行政視察調査報告書

平成30年5月25日

三田市議会議長 様

生活地域常任委員会委員長 厚地 弘行 印

大西 雅子 印

福田 秀章 印

長谷川 美樹 印

佐々木 智文 印

小山 裕久 印

中田 哲 印

随行者 地域振興部産業政策課係長 神影 保緒 印

随行者 議会事務局議事総務課課長補佐 増田 治 印

本委員会が実施いたしました行政視察の結果を下記のとおり報告します。

- 1 実施日 平成30年5月10日（木）～11日（金）
- 2 視察先 5/10 鳥取県境港市  
和綿「伯州綿」を活用した雇用・産業創出事業について  
5/11 鳥取県米子市  
(1)「平成の米子市都市景観施設賞」について  
(2) 市民からのメールによる道路損傷等情報の収集について
- 3 視察先対応者 境港市：産業部商工農政課、議会事務局  
米子市：都市整備部建築相談課・道路整備課、議会事務局
- 4 添付資料 (別紙のとおり)
- 5 調査結果の概要及び所見 (別紙のとおり)

## 生活地域常任委員会 視察（鳥取県境港市）

### ● 視察参加議員

◎厚地 弘行、 ○大西 雅子、 福田秀章、 長谷川 美樹  
佐々木 智文、 小山 裕久、 中田 哲

### 事務局随員

地域振興部 産業政策課 係長 神影 保緒  
議会事務局 庶務係 課長補佐 増田 治

- 視察日時 : 平成30年5月10日(木) PM14:00~PM15:30
- 視察事項 : 和綿「伯州綿」を活用した雇用・産業創出事業について
- 視察対応者 : 産業部 次長兼商工農政課長 阿部 英治  
産業部 商工農成課 農業振興係長 三瀬 健太郎  
議長 柗 康弘  
事務局長 築谷 俊三

### 【 視察地 概要 】

人口 34,387人(平成30年2月28日現在)  
面積 29.10km<sup>2</sup>  
市制施行 昭和31年4月1日  
議員定数 16人

### 【 所見 】

耕作放棄地の解消策として休耕地の管理工作用の作物を検討しているなかで、少ない労力で一定面積の栽培が可能な綿花の試験栽培を考案したのが発端のようだ。

日本古来の品種である伯州綿は、今から300年以上前の江戸時代前期に栽培が始まり、かつては一大産地として全国に名を馳せた境港市の特産物であり、栽培地の鳥取県西部（伯耆<sup>ほうき</sup>の国）であることから「伯州綿」といわれている。

この伯州綿を現代の地域ブランドとして確立させ、国産綿の重要を掘り起こして産業として成り立つ体制を整えることで、地域雇用の創出、耕作放棄地の課題解決、新たな特産品の創出に繋げることを目的とし事業を開始された。栽培の担い手としては、H20年生産に着手された時は、商工農政課職員によっておこなわれていたが、翌H21年度からは「ふるさと雇用」H24年度には「緊急雇用」H27年度からは「地域おこし協力隊」と「公社臨時職

員」。そしてサポーターを募り、伯州綿の生産に取り組んでいる。栽培をする際、負担が大きかったことは、夏場の草取りのようだ。この負担が大きいことから、途中で挫折した協力隊もいるようである。

しかし3年の地域おこし協力隊の責務を終え、地元に戻り、伯州綿を自家栽培し、伯州綿を活用した新たな下着の商品開発をおこなっている方がいるようだ。

また産官学金の地域連携の取り組みの中で、介護用衣料「寝ごころちゃん」の開発もおこなっている。その他にも赤ちゃんおくるみやひざかけ、トートバック、タオル、ネクタイ等の商品開発をおこなっている。

しかし伯州綿は安価な外国産綿に比べ高価な上、商品化するに際し、県外の企業に依頼している。よって商品価格は少し高めである。また商品売り上げの半分は、市から市民への記念品として活用する品であることから、市の買い上げ金が占めている。

このような採算の合わない事業ではあるが、伝統の継承という意味で事業を実施している。よって大量生産による経済効果を重きにおいていないことから、事業実施時の雇用の創出については少し乖離しているところがあるが、地域の伝統を大事にするなかで、ふるさとを大事にする心が育まれていくと感じた。

大変な事業ではあるが、大事な事業であると感じることから、今後もより一層伝統の継承に努めていただきたい。

本市においても三田市民が「三田への愛着心」を高める施策がより一層大事であると感じる。

(文責：大西雅子)



境港市庁舎



伯州綿

- 所見 300年以上前に栽培が始まった伯州綿を復活、ブランド化しようという取り組みである。平成20年から始まり現在栽培しているのは職員やふるさと雇用、地域おこし支援隊の数名と市民のサポーター数十名であり、農家の栽培はない。経営上農家が栽培することは考えられないということだ。商品化は企業に委託しており高く輸入綿と比較すると競争できるコストにはいたらない。よって、商品は「赤ちゃんおくるみ」「100歳膝かけ」など市民に配布されるものが多い。赤ちゃんおくるみ18,000円、ひざかけ30,000円と、なるほど商品としては高いが、実物の手触り、触感はやわらかく良い感じがした。サポーターが栽培した綿については1,500円/kgで市が買い取っている。

事業の目的は雇用・産業の創出としながらも採算ベースではなく、伝統文化継承の狙いが多いものと思う。そういう視点から取り組みれば大切なことである。議員からわたアメなど関連させた商品化への展開についてどうかとの質問があった。産業としてならば綿の栽培にこだわらず、綿商品の企画拡大によりブランド化し、雇用を増やすことが考えられる。しかしこれとて費用がかかることで、民間会社が取り組むことが望ましいと思う。

雇用・産業の創出には今のところなり難いが、地域文化の継承として大切な事業であると思う。また、市民のサポーターは現在110名と少しずつ増加しており、サポーターを使う方法についてはたいへん参考になると思う。

（厚地弘行）

## 境港市の視察、和綿「伯州綿」を活用した雇用・産業創出事業

(所見)

耕作放棄地の解消策として、休耕地の利用で綿花栽培を復活させ、産業化を目指す事業であるが、農業公社に委託、そしてふるさと雇用再生特別基金事業（国の補助事業）地域おこし協力隊 3 名の活用で取り組みをされた説明を受けました。栽培から製品までできた品物は良品な製品になっていましたが市民の新生児や 100 歳になられた高齢者にプレゼントになっていました。これは費用対効果の面において、継続的な事業としては続かないと思います。

三田市には、応用する事業ではないと思う。

作成者 福田 秀章

生活地域常任委員会として、5月10日—11日の視察

2018年5月11日

長谷川美樹

初日の5月10日(木)は、マイクロバスをチャーターして、市役所を9時に出発し、鳥取県境港市へ向かった。

午後2時から市役所会議室にて、市議会議長の柗 康弘氏のご挨拶をいただき、続いて産業部次長商工農政課長の阿部英治氏、商工農政課農業振興係長の三瀬健太郎氏から説明を受けた。

視察の目的は、境港市が和綿「伯州綿」を復活させ、活用した雇用と三郷創出事業をおこして取り組みされていることについて、伺うことであった。

説明の内容は省略するが、歴史的には「伯州綿」は300年以上前の江戸時代前期に栽培が始まったといわれ、鳥取県西部で栽培された。最盛期には一大産地を形成し北前船によって全国ブランドになるも、明治29年に関税撤廃されたことにより、外国産綿が台頭し、国産綿は衰退した。しかし、「弓浜緋」として、細々と引き継がれて地域で守られてきた歴史がある。

「採算性・収益性・産業性」については、実質的にその状況までとても達していない状況。

採算性はないが、むしろ手間のかかる作業を経て「伯州綿」による、しかし収益性のない事業が何故続けられているのか？

市長の思い・・・「子育てするなら境港市」として、子育てに優しいまちとして、赤ちゃん誕生プレゼントとして、肌に優しい伯州綿で織った布で「おくるみプレゼント」をしている。かなり高価なプレゼントではあるが、市長の思いが良く表れている。また、高齢者に対する「100歳 ひざかけプレゼント」もおこなっている。

率直に言って現状ではとても事業収益を上げている状況ではないが、「この事業は今日明日、直ぐに産業化は困難である。もう少し長い目で見てほしい」として、市長は議会にも理解を得て進めている。(もちろん、説明では様々な開発や事業化に向けての取り組みが、市内事業者によって挑戦が続けられている)

この伯州綿を活用した行政としての取り組みは、長期的な展望をもって地域の歴史的特性を活かし、境港ならではの「文化」「コンセプト」を想起させ、市民にとって「優しさゆとりのあるまち」のイメージを市民にあたえるものと思える。

これは、採算性・経済効率重視ばかりの今の三田市行政には理解が困難な取り組みであろうが、自治体のあるべき姿として、大変重要なポイントであろうと思う。

生活地域常任委員会視察

佐々木智文

5月10日(木)

境港市

「伯州綿を活用した雇用・産業創出事業について」

○一人の市職員の発想が、雇用から販売を生み、素晴らしい職員が育っていることに感銘を受けました

30年5月10日 鳥取県境港市視察所見

小山 裕久

和綿伯州綿を活用した雇用、産業創出事業について

商工農政課長 阿部さまより4コマ資料にて説明をうけた。

300年以上前の江戸時代前期に栽培が始まり最盛期には、全国ブランドになった。明治29年関税撤廃により、安価な外国産綿が台頭し衰退した。

伯州綿の特長として、短繊維ゆえ弾力性に富み、保温効果に優れている、しかし短繊維のため当時の技術では糸にしにくく加工が難しかった、近年の技術革新により可能となり、開発商品の幅が広がった。

伯州綿栽培の効果として、(1)かつてのブランド綿の復興、(2)耕作放棄された畑の再生(3)雇用の創出(4)伯州綿製品販売による特産品化(5)サポーター制度による協働活動(6)新生児におくるみをプレゼントし子育て支援に寄与以上6点があげられる。

伯州綿の課題として、(1)生産面では、種まき、除草作業の省力化(2)販売面での新たな商品の企画、開発、販売(3)知名度を上げる情報発信、などがあげられる。

課題克服に向けた取り組みとして、平成27年より、持続的な栽培、PR活動、新商品の企画等を展開するために、地域おこし協力隊を募集し活用も始めている。この成果として契約が終了した後も、伯州綿を使った布団や小物の企画販売を行っている方も居られる。

以上の説明の後、質疑応答の時間をいただきました

(質)境港市の平坦な農地なら他の農作物で効率のよい物があるとおもうが

(答)境港市は、白ねぎの産地でもでもあるが、収益性だけでなく伝統を大切にしていきたい。

(質)生産、販売状況、雇用について

(答)種まきの時の天候により、収穫量が変化してしまう、平成21年から国の制度を活用したふるさと雇用により栽培と収穫が大きくなってきた。平成27年からの地域おこし協力隊の雇用が厳しく新しい協力隊の方が集まらない。

(質)今後の取り組みと課題について

(答)産業化については、農薬を使わず割高になってしまう伯州綿をどのように活用できるかを考えている。つぎの世代に繋げていくサポーターの皆さんと力合わせていきたい。

私の所見ですが、その街独自の伝統を大切に、またかつてのブランドを再興させ、それを雇用の創出や子育て支援に繋げて行くすばらしい事業だと感じました。しかしながら、売り上げの半分以上が市の買い上げになっている現状をみると、収益と伝統をどちらも大切にすることの大変さを感じました。

以上



調査日時	平成30年5月10日(木) 14時00分～15時30分
視察先	鳥取県境港市
調査事項	和綿『伯州綿』を活用した雇用・産業創出事業について
<p>(調査結果の概要及び所見)</p> <p>所見</p> <p>旧来からの特産品であった「伯州綿」の良さを見直し、耕作放棄地を利用して綿花栽培を復活させ産業化を目指す。かつての主要作物・伝統・地域の固有性を活かした産業創出への取り組みとして評価できる。</p> <p>耕作放棄地の問題解決と、高齢者の生き甲斐づくり、地場産業・雇用の創出、シティーセールス、市民郷土愛の醸成等、一事業で様々な効果が同時に得られる非常に優れた取り組みであると言えるが、事業採算性においては、商品の売上相手先の主要部分を行政機関が占めており、経済的には自立性にやや欠ける。</p> <p>参加議員からは、おくるみ・高齢者雇用の点を挙げ、伝統を大切にし、子育て・高齢者を意識した市の温かみを感じる施策だと評価する声があった。</p> <p>売上一覧表を拝見すると、買い求め安い価格で、売れ筋商品と思われるタオルや、ハンカチが、みなとまちや、良品計画といった優良取引相手先と、全く取引がなされていない点が気になった。インターネットなども含めた販売ルートの開拓、見直しが今後の課題か。</p> <p>綿の生産は無農薬にこだわっており、赤ちゃん用のおくるみなど昨今の健康志向の高まりを意識した商品開発、販売戦略の大きな方向性は今後も維持するべきだと感じたが、<u>これにとどまてはいけない</u>。地域おこし協力隊の卒業生が、伯州綿をつかった下着作りの研究に取り組んでおられることが紹介されたが、このような取り組みは非常に有望であり、今後も、地域おこし協力隊の卒業生、民間企業、研究機関との連携を発展させていくことが、大変重要であろうと思われる。地域おこし協力隊3名の進路について、2名が近隣地域に残ったと一定の評価とも取れる総括をされておられたが、<u>更なる発展を期待したい</u>。</p> <p>伯州綿事業における農業公社の関わり方は、耕作放棄地における通常の間管理の役割にさらに付加価値をつけるものであり、三田市においても今後、農業放棄地・担い手不足への対応策として同様の取り組みを始める中で、ただ、耕作者をつなぐというだけでなく、特産品・ブランドの育成、市民参加の目線で、このような先進事例を研究して深く関わっていかなければならないと感じた。</p> <p style="text-align: right;">文責 中田哲</p>	

【1日目】

日時 5月10日(木) 午後2時～3時30分

場所 境港市役所 第3会議室

説明者 境港市 産業部 商工農政課 阿部 次長 兼 課長(市農業公社 事務局長)

〃 三瀬 農業振興係長

[境港市概要] 人口 34,300人(平成30年4月末現在) 面積 29.10㎢

●『伯州綿を活用した雇用・産業創出事業について』 ※別紙資料(カラー)に沿って説明

- ・ 江戸時代前期から明治時代にかけて、鳥取県西部(伯耆の国)が『伯州綿(和綿)』の一大産地であった。その後、明治29年の関税撤廃により、安価な外国産が台頭した為、衰退。
- ・ 耕作放棄地の対策、かつてのブランド綿の再興を目的として、市職員(当時の担当課長)が栽培を始めたのをきっかけに事業化。
- ・ 「地域おこし協力隊」の活用と農業公社(大部分は市職員が併任、専属職員は若干名)を中心に栽培サポーター(ボランティア)の協力を得て、栽培を拡大。
- ・ 地域おこし協力隊は、栽培だけでなく、新たな商品の企画・開発・販売やSNSを活用した情報発信を行っている。
- ・ 農薬・化成肥料は不使用。最盛期で平成24年に栽培面積2.6ha、収穫量3,135kg。
- ・ 事業拡大に伴って、国の「ふるさと雇用制度」「緊急雇用制度」を利用して、6名程度の雇用創出。
- ・ 平成30年度は栽培サポーターが約110名、5月12日に一斉に種まきを予定。
- ・ 伯州綿製品の売上の半分以上は、市が買い上げ、市内の赤ちゃんへの『おくるみ(赤ちゃんの体をくるむもの)』プレゼントや100歳高齢者への『ひざかけ』プレゼントを行っている。
- ・ おくるみをプレゼントされた親子が、今度は栽培サポーターとなって伯州綿を栽培し、次世代へつないでいくことで、伯州綿を後世に伝え、地域の活性化を図る。
- ・ 課題は、無農薬・化成肥料を使用しない栽培技術の確立と種まき、除草作業の省力化。ブランド化と販路開拓、情報発信など。現状では、売上金額の半分以上は市が占めている(プレゼント用のおくるみの購入など)ため、採算性の問題など。在庫も増えている。

◆事業説明に関する所見

「ゲゲゲの鬼太郎」をテーマにした観光スポットや「さかなのまち」として知られている境港市ですが、農業においても、かつての伝統ブランドの再興を目的に、伯州綿を活用した綿商品のブランド化に取り組んでいます。

商工農政課の前担当職員が一人で始めた栽培がきっかけであり、説明の内容からも当時の担当職員が熱心に事業化を押し進めようとしていたことが理解できました。

平成20年度の事業開始から、ある程度の事業拡大が図られ、少人数ですが雇用拡大にもつながるなど、一定の事業成果も出ていますが、栽培の手間が掛かり、コスト面も高いため、収益が上がらず、中々立ち上がらないことが課題となっているようです。

それでも、栽培サポーターとの協力によって、「この事業が次世代へつながるものにしていきたい。すぐに産業の活性化に結び付けるのは難しいが、長い目で見てほしい」との説明に、担当者の熱意を感じました。

地域おこし協力隊の任期(3年間)終了とともに、3名の協力隊は全員、境港市を転出しましたが、うち2名は鳥取県内の他の市町へ移住し、1名は大阪府内で伯州綿の製品を使った事業を立ち上げているとのことでした。その他、鳥取大学医学部が中心となって産官学金による地域連携プロジェクトを発足させて商品開発を行っていることや、民間事業者による伯州綿の製品開発・販売も行われており、同事業が着実に地域経済の活性化につながっていることが感じられました。

三田市で同じような取り組みは難しいかもしれませんが、今回学んだことを参考に、市内事業者や商工会と連携しながら特産品の開発、市ブランドの育成などに取り組んでいきたいと考えます。

## 視察外レポート 水木しげるロードについて

下記特徴が見られた。三田市の商店街の活性化に役立つものとして記録する。また次に機会があればその運営と成り立ち等について、境港市職員から聞いてみたいと思う。

- 多くのキャラクターの妖怪ブロンズ像は、個人や企業による寄贈が多くあった。
- 商店街での意匠について、ゲゲゲの鬼太郎風のまんがの世界に入ったような外観に努めている店が多い。若干の普通の店構えのところもある。
- 古民家や、従来の店を活用した店構えにしてあり、店舗改修に大規模な改造ではないと思うが、全体として来客に興味を持たせるのは、歩道やブロンズ像などによるものと思う。
- 目玉おやじの展示物や小さな神社などまち並みにまんがのストーリー性を感じる。
- 各店舗ではまんがに出てくる妖怪にちなんだ商品が販売されており、工夫されている。  
(ノート、消しゴム、ハンカチタオル 団子、アイスクリーム、お菓子他)
- 通りを改修中であった。電柱の地中化か休憩所や歩道を広げているようすである。
- 公衆電話の前の表示に「妖怪に個人情報を狙われないように注意」とあり、遊びごろを感じる。まちの回遊を楽しませている。
- 通り全体で次の魅力づくりを作り出そうという雰囲気を感じる。
- 活性化として三田でも取り入れたい一方で、インパクトのあるキャラクターが必要。

